

中園理沙 ピアノコンサートレポート vol. 3 (湘南編①-2)



チェロソナタですから確かにチェロが中心となる曲なので、合奏の時はチェロの重厚な音色を邪魔することなく存分に引き立たせながら、ピアノソロの部分は、まさにピアノソナタのように美しく表情豊かな素晴らしい演奏でした。

少し間をおいて、2曲目のマルティヌーの「スロヴァキア民謡による変奏曲」の演奏が始まりました。



この曲は実にリズムの取り方や、二人の呼吸の合わせ方の難しい曲でしたが、その分チェロとピアノのかけ合いの妙、二人の演奏者の呼吸、息遣いの妙とでも表現したらよいような、二人がぴたりと一体となった、思わず身震いしたくなるような、真っ直ぐにズシリと聴衆に訴えかけてくるような熱い感動がありました。



大曲でありながら若い二人の魂が共鳴しあう世界の中にいつしか引き込まれていった時を忘れてしまうような感動的な演奏でした。

その素晴らしさは演奏を終えた後のお二人の清々しい表情に良く表れていました。



アンコールはチャイコフスキーの美しい旋律が演奏されコンサートは終了しました。

クリスティーナさんが奏でるチェロの持つ独特の重厚さと、中園さんが奏でる爽やかで繊細な美しさ。若い二人の演奏家の素晴らしさが上手く融合した、熱い魂の触れ合いといった実に清々しい感動的な印象に残るコンサートでした。